

武蔵-片町 8割プラス拡大



都心軸上昇 複数で10%超伸び

金沢市中心部で路線価の上昇率が拡大している。金沢の都心軸に当たる国道157号の武蔵交差点、片町交差点周辺にある全22地点がアップし、この8割に当たる18地点で伸び率が2018年の調査より大きくなった。香林坊、片町では伸び率が2桁を示した地点も複数あった。地価上昇の中心はホテル開発が相次いだ南町周辺から、その南北方面に移っており、旺盛な開発需要がまちなかの上昇を支えている。

【一面に本記】



武蔵-片町で伸び率が縮小したのは、18年にプラスが大きかった南町の3地点と武蔵の1地点のみ。武蔵、香林坊、片町の各交差点周辺で、18年になかった伸び率10%超えの地点がみられる。エステック不

2023年春に北陸新幹線が延伸する地域では、当面の終着駅となる敦賀が3年ぶりに上昇し、福井はプラスを続けた。一方、小松は横ばい基調を抜け出せなかった。

敦賀市白銀町の敦賀駅前

敦賀上昇、小松は横ばい

広場通りは18年から1.6%上昇し、1平方メートルあたり6万4千円。石川県地建連は横ばい基調を抜け出せなかった。新谷会長は「これまで、1千人規模のホールやマンションのほか、商業施設駅前は4年連続で10万

ホテル開発ラッシュ

金沢市中心部で続くホテル開発ラッシュが、JR富山駅周辺に波及している。金沢駅周辺は大規模用地が売れて新たな供給がない状態で、大手資本は物色の範囲を広げ、割安感のある富山に注目する。富山市校町1丁目の駅前広場通りは1平方メートルあたり49万円、伸び率は2018年の調査と同じ2.1%だった。

金沢から富山に波及

富山駅南側の「ホテルJALシティ富山」を開発する。富山駅南側の「ホテルJALシティ富山」を開発する。富山駅南側の「ホテルJALシティ富山」を開発する。

武蔵-片町で伸び率が縮小したのは、18年にプラスが大きかった南町の3地点と武蔵の1地点のみ。武蔵、香林坊、片町の各交差点周辺で、18年になかった伸び率10%超えの地点がみられる。エステック不

動産投資顧問(金沢市)の武部社長はこう分析する。武部氏によると、ホテルなどの開発は都市部の業者になじみの深い駅前から始まり、近年は観光地に近い南町周辺のオフィスビル跡地でも進んだ。武部氏は「片町は飲食街が近く、競合ホテルが少ないエリアだった。金沢の街の構造が認知され、開発対象が広がった」と指摘する。

5千円の評価だった。ただ、周辺では苗加不動産(金沢市)が賃貸マンション、マシロ、広島市が分譲マンションを計画するなど、少しずつ開発案件が増えてきており、明るい兆しも出てくる。

加賀温泉駅前は調査地点がなく、大聖寺駅前でも高い地点は前年と同じ3万4千円だった。新谷会長は「商業地が上がって地域の利便性が高まれば、遅れて住宅地も上がってくる」との見方を示した。

野々市が上昇

松任署管内

松任署管内の最高価格地点で、野々市市役所に近い同市三納1丁目の野々市中央通りは、2018年まで3年連続の横ばいだったが、19年は1.4%の上昇となった。

野々市が上昇

松任署管内

松任署管内の最高価格地点で、野々市市役所に近い同市三納1丁目の野々市中央通りは、2018年まで3年連続の横ばいだったが、19年は1.4%の上昇となった。

する西松建設(東京)は、富山を「金沢と同じくらいのホテルがある」と評価する。ホテルは観光客やビジネス客を見込み、22年開業を目指す。今年4月には大和ハウスグループが同じエリアでホテルを開業した。さらに駅周辺で複合施設の進出計画もある。

営業部門を強化

アイオーデータ機器